

講義コード	1530630003
講義名称	マス・コミュニケーション論 03<秋>
科目英文名	Mass Communication
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	COMM1400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
趙 相宇

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	私たちは新聞、ラジオ、映画、テレビ、インターネットといったコミュニケーション・ツールが当たり前の時代を生きています。絶えずに大量の情報に露出され続け、大勢の人々とつながる（つながろうとする）現代の感覚は私たちにあまりにも馴染み深く、ゆえに、その感覚が摩訶不思議に見える時代があったことを忘れがちです。 本講義では、思考の基礎的な枠組みとなる言語学やメディア学の知見をまず概観します。その上でマス・メディアの誕生と変遷を考察し、メディアと社会の関係性を主に「国民国家」の側面から考えていきます。大勢の人々と大量の情報を同時的につなぐコミュニケーション・ツールがいかなる歴史的な背景から生まれたのか。また、そうしたツールが、「我々」と「彼ら」という境界をいかに生み出してきたのか。あるいは、崩してきたのか。これらの問いを一つ一つ丁寧に理論および歴史から紐解いて行くことによって、私たちのメディアを用いたコミュニケーションの原点を省察します。
学習（到達）目標	・メディアと現代史の観点から自他の社会を多角的に捉えるための専門的な知識を習得できる。 ・関連の専門知識を私たちの実際のマス・メディアを用いたコミュニケーションの考察に応用できる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	言語と認識
第3回	マス・コミュニケーション効果論ー強力効果説
第4回	マス・コミュニケーション効果論ー限定効果説と新たな強力効果説
第5回	メディアはメッセージである
第6回	理論編の総括
第7回	近代とはどういう時代？ー宗教革命、産業革命、そして、印刷革命
第8回	市民社会とコーヒーハウス
第9回	国家と国民とは？ー「想像の共同体」という発明
第10回	聴覚とメディアー最先端としての「ラヂオ」
第11回	明確な記憶と曖昧な歴史ー8月15日の神話
第12回	近代的視覚の誕生とマス・メディア
第13回	家にテレビがやってきた！
第14回	越境するメディア文化ー境界の再生産か、溶解か
第15回	歴史編の総括

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	毎回の授業後に200字程度のコメントペーパーを提出していただきます。出席点とコメントペーパーの点数50%、最終レポート（2000字程度）の点数50%で成績算出を行います。レポートは大変厳しく採点しますので、可能な限り授業に出席されることをお勧めします。
---------------	--

参考文献	佐藤卓己（2018）『現代メディア史 新版』岩波書店。 吉見俊哉（2016）『メディア文化論：メディアを学ぶ人のための15話 改訂版』有斐閣アルマ。 ※その他、みなさんの反応をみながら、紹介した方が良い文献は授業中に適宜示します。
事前および事後学習の指示	授業中には近現代史の基礎的な用語が繰り返し登場します。簡略に説明はしますが、うまく理解できなかった部分については各自用語を調べてみてください。授業後に質問してもいいです。近現代史の基礎的な用語に加え、メディア学および社会学の基礎的な用語も多く使われる予定ですが、こちらについても、自分の言葉で説明できるようにしっかり予習と復習を行ってください。なお、皆さんの興味関心に応じて授業内容が多少変更される場合があります。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	メディア、コミュニケーション、市民、大衆、公共圏
備考（管理者用）	（旧：マス・コミュニケーション論Ⅰ）02～18生読替